

令和 8 年用ねぎ病虫害防除基準

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

発 行：J A さ が え 西 村 山
さがえ西村山野菜振興協議会

害虫防除【殺虫剤】

作業	RAC コード	薬 剤 名	使 用 方 法				対 象 病 害 虫						注 意 事 項
			倍 率	散布量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数	アザミ ウマ類	ハモグリ バエ類	ネギコガ	シロイチモ ジヨトウ	ネキリ ムシ類	ネダニ類	
育苗 後半期	28 4A	ジュリボフロアブル	200倍	灌注	育苗期後半 ～定植当日	1 回	ネギ●	ネギ●			●	●	●登録：タネバエ ペーパーボット 1 冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4 L）当たり0.5 L
定植時	1 B	ダイアジノン粒剤 5	6 kg／10a	全面土壌混和又は 作条土壌混和	は種時又は 定植時	2 回以内							●登録：コガネムシ類幼虫
	3 A	フォース粒剤 [㊞]	9 kg／10a	作条土壌混和	定植時	1 回					●	●	●登録：クロバネキノコバエ類
	4 A	スタークル顆粒水溶剤	50倍	灌注	定植前日 ～定植時	1 回	●	●	●	●			●登録：タネバエ ペーパーボット 1 冊（30×60cm、使用土壌約1.5～4 L）当たり0.5 L
定植時 ～生育期 （株元散布）	4 A	ダントツ粒剤	6 kg／10a	植溝処理 土壌混和	植付時	1 回	ネギ●	ネギ●					●登録：タネバエ
			6 kg／10a	株元散布	3 日前まで	4 回以内	ネギ●	ネギ●				●	※クロチアニジンを含む（ダントツ）総使用回数は 4 回以内 （定植時までの処理は 1 回以内）
	4 A	ベストガード粒剤	6 kg／10a	植溝処理 土壌混和	定植時	1 回	ネギ●	ネギ●					●登録：クロバネキノコバエ類
			6 kg／10a	株元処理	前日まで	3 回以内	ネギ●	ネギ●					
	3 A	アグロスリン乳剤 [㊞]	2, 000倍	100～300 ℓ	7 日前まで	5 回以内	●	ネギ●	●				●登録：アブラムシ類、シロイチモジヨトウ（1,000倍）
	21A	ハチハチ乳剤 [㊞]	1, 000倍	100～300 ℓ	7 日前まで	2 回以内	●	ネギ●	●	●			●登録：さび病、べと病、アブラムシ類、クロバネキノコバエ類
生 育 期	30	グレーシア乳剤	2, 000倍	100～300 ℓ	7 日前まで	2 回以内	●	●	●	●			●登録：クロバネキノコバエ類
	U N	ブレオフロアブル	1, 000倍	100～300 ℓ	3 日前まで	4 回以内	ネギ●			●			
	6	アグリメック [㊞]	1, 000倍	100～300 ℓ	3 日前まで	3 回以内	●	ネギ●					
	9 B	コルト顆粒水和剤	2, 000倍	100～300 ℓ	3 日前まで	3 回以内	ネギ●	ネギ●					●登録：アブラムシ類
	28	ヨーバルフロアブル	2, 500倍	100～300 ℓ	3 日前まで	3 回以内	●	●	●	●			●登録：クロバネキノコバエ類
	5	ディアナ S C	2, 500倍	100～300 ℓ	前日まで	2 回以内	●	ネギ●	●	●			
	30	プロフレア S C	2, 000倍	100～300 ℓ	前日まで	3 回以内		ネギ●	●	●			

病害防除【殺菌剤】

作業	RAC コード	薬 剤 名	使 用 方 法				対 象 病 害 虫							注 意 事 項
			倍 率	散布量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数	べと病	さび病	軟腐病	白絹病	小菌核 腐敗病	葉枯病	黒斑病	
揃い芽 後	M 5	ダコニール1000	500倍	0. 5L／㎡ 土壌灌注	出芽揃い後 (出芽 3 日 後から10 日後まで)	1 回								●登録：苗立枯病（リゾクトニア菌） ※ペーパーボット 1 冊（30×60cm、使用土壌約 5 L）当たり0.5 L
生 育 期	1	トップジンM水和剤	250倍	苗床灌注	定植直前	1 回					●			※チェーンボット 1 冊（30×60cm、使用土壌約 5 L）当たり0.5～1 L
	11 2	ユニフォーム粒剤	9 kg／10a	株元土壌混和	45日前まで	1 回	●	●		●				●登録：黒腐菌核病 土寄せ時
	P 2	オリゼメート粒剤	6 kg／10a	株元散布	30日前まで	2 回以内			●					土寄せ時
	3 M 3 U N	テーク水和剤	600倍	100～300 ℓ	14日前まで	3 回以内	●	●				●	●	
	M 5 40	プロポーズ顆粒水和剤	1, 000倍	100～300 ℓ	14日前まで	3 回以内	●					●		※ T P N を含む（プロポーズ、ダコニール）総使用回数は 4 回以内 （土壌灌注は 1 回以内、散布は 3 回以内）
	M 5	ダコニール1000	1, 000倍	100～300 ℓ	14日前まで	3 回以内	●	●			●	●	●	
	24 M 1	カスミンボルドー	1, 000倍	100～300 ℓ	14日前まで	2 回以内			●					
	31 24	カセット水和剤	1, 000倍	100～300 ℓ	14日前まで	2 回以内			●					※オキソリニック酸を含む（カセット、スターナ）総使用回数は 3 回以 内
	31	スターナ水和剤	2, 000倍	100～300 ℓ	7 日前まで	3 回以内			●					
	2	ロブラール水和剤	500倍	1 L／㎡ 株元灌注	14日前まで	3 回以内				●	●			
			1, 000倍	100～300 ℓ							●		●	●登録：ボトリチス葉枯症
	49 40	オロンディスウルトラ S C	2, 000倍	100～300 ℓ	7 日前まで	2 回以内	●							
	7	アフエットフロアブル	1, 000倍	1 L／㎡ 株元灌注	14日前まで	2 回以内				●				●登録：黒腐菌核病
			2, 000倍	100～300 ℓ	前日まで	2 回以内		●		●	●	●	●	※【S D H I 剤】 耐性菌出現防止のため連用は避 ける。
	7	カナメフロアブル [㊞]	4, 000倍	100～300 ℓ	前日まで	2 回以内		●		●		●	●	●登録：黒腐菌核病（株元散布）
	11	アミスター20フロアブル	2, 000倍	100～300 ℓ	3 日前まで	4 回以内	●	●				●	●	●登録：リゾクトニア葉鞘腐敗病 黄斑病
	11	メジャーフロアブル	2, 000倍	100～300 ℓ	前日まで	3 回以内	●	●		●	●	●	●	※浸透性を高める効果のある展着 剤を混用すると葉害を生じる場 合がある。 ※【ストロビルリン系】耐性菌出 現防止のため総使用回数は 2 回 以内とする。
	U 18	バリダシン液剤 5	500倍	100～300 ℓ	前日まで	2 回以内			●	●				※白絹病は株元散布、軟腐病は散布
	M 1	クプロシールド	1, 000倍	100～300 ℓ	—	—	●		●					

除草剤使用基準

	薬 剤 名	RAC	10 a 当り薬量／散布量	使 用 時 期	使用方法	使用回数	適用 雑 草	特 性
土 壌 処 理 剤	ゴーゴーサン乳剤	3	200～300mℓ／70～100 ℓ	定植後（雑草発生前） (定植10日後まで)	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・土壌が過湿の場合は使用しない。 ・キク科雑草およびツククサには効果が劣る。
	トレファノサイド乳剤	3	200～300mℓ／100 ℓ	定植後雑草発生前 (収穫30日前まで)	全面土壌散布	2 回以内	一年生雑草	・トンネル・ハウス栽培ではガス化による葉害のおそれがあるので使用しない。 ・ツククサ科、カヤツリグサ科、アブラナ科、キク科雑草には効果がない。
	クレマート乳剤	3	200～400mℓ／100～150 ℓ	定植活着後雑草発生前 (定植10日後まで)	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・ガス化しない
	ロックス	5	100～150 g／70～150 ℓ	定植後（雑草発生前） (但し、収穫30日前まで)	畦間土壌散布	1 回	一年生雑草	・イネ科雑草多い場合、他剤との混和が望ましい。 ・砂質土壌では使用しない。
			75～150 g／100 ℓ	定植30日後以降中耕培土後 (雑草発生前)（但し、収 穫30日前まで)	雑草茎葉散布 又は全面散布		一年生広葉雑草	
茎 葉 処 理 剤	ナブ乳剤	1	150～200mℓ／100 ℓ	雑草生育期（イネ科雑草 3 ～5 葉期）(収穫30日前まで)	雑草茎葉散布 又は全面散布	1 回	一年生イネ科雑草	・遅効性で枯死するまで 7～10日必要。イネ科作物に葉害飛散に注意。 ・スズメノカタビラには効果がない。
	バスタ液剤	10	300～500mℓ／100～150 ℓ	雑草生育期：耕起前・定植前 または畦間処理（収穫前日まで）	雑草茎葉散布	2 回以内	一年生雑草	・非選択性、スギナに効果高い
	ラウンドアップマックスロード	9	200～500mℓ／50～100 ℓ	雑草生育期：定植後畦間処理 (収穫30日前まで)	雑草茎葉散布	3 回以内	一年生雑草	・非選択性 ・吸収移行型除草剤